

第3回仙台広域圏 ESD 学びあいセミナー報告

8月4日(土) 15:00~18:30 田尻口マン館において

8月4日(土)に田尻口マン館において、仙台広域圏第3回学びあいセミナーを開催しました。各地域からの参加者は下記の通りです。(14名)

定例の2ヶ月に一度の幹事会や運営委員会では、ゆっくり議論することができなかった各地域共通の目標などを議論し、また、田尻地域のまるごとエコ・グリーンツアー in たじりを体験でき大変有意義なセミナーとなりました。

次回の第4回仙台広域圏 ESD 学びあいセミナーは、宮城県南の七ヶ宿・白石地域で10月20日(土)に開催予定です。

参加者	氏名	所属
大学	小金澤孝昭	宮教大
	目々澤紀子	"
仙台地域	阿部 有生子	仙台市環境都市推進課
	海藤 節生	FEEL Sendai
気仙沼地域	白幡 勝巳	気仙沼 RCE 推進委員長
	及川 幸彦	気仙沼市教育委員会
大崎田尻地域	戸島 潤	蕪栗ぬまっこくらぶ副理事長
	遠藤日出男	大崎商工会田尻支部長
	佐々木重信	田尻グリーン・ツーリズム委員会会長
	三浦 孝一	ふゆみずたんぼ連絡会会長
	西澤 誠弘	田尻総合支所産業建設課長
	千葉 嘉一	" 課長補佐
その他	村上 千里	ESD - J 事務局長
	谷田貝 泰子	EPO 東北

学びあいセミナー・メモ

【報告事項】

仙台地域

FEEL Sendai や助成事業を軸にしながら団体がパートナーシップを組んでいる。

7年かけてやっている環境フォーラムの今年のテーマは「地球温暖化」。このフォーラムは、仙台市民のESD発表会でもある。少しずつ学校関係者も参加しているので、学校のブースを作る。

PTA や教育委員会との連携を深める。

50代～60代は環境問題を考えているが、30代～40代の意識改革が必要。子ども達を変えて親に働きかけると同時に、親に直接働きかける。

気仙沼地域

教育委員会を軸に環境学習を進めている。

フォーマルエデュケーション（公教育）カリキュラムの中に環境教育を入れて実践。小中高と大学の連携の中で、地域が支えて他の学校に広がっている。

森は海の恋人運動（山に木を植える）や実践的な体験学習を行っている。

スローフード運動

町おこし、ふるさとを見つめなおすなど水産業を巻き込んだ産業振興・地域リソースの集合

大崎田尻地域

地域産業が基盤

環境を良くするための取り組みが経済効果を生み、経済効果が環境をよくしている。

エコツーリズム・環境保全型農業・農家レストラン・ラムサール条約（蕪栗沼だけでなく周辺湿地や田んぼを含んだ）を繋げている。

学校現場の教える立場とNPOのコラボレーションが必要。（思いを伝える。どう伝えるか？）

【今後、全体として】

都市・農村・漁業そして水資源のように地域を広める。

- ・100万人の消費人口を抱える仙台市、農村の大崎市田尻地域、漁業の気仙沼市、そしてこれから仙台広域圏として活動していく予定の水資源の白石・七ヶ宿にリンクを張り、宮城県全体の取り組みとしていく。
- ・市民レベル・ブロックでよいので、ESDを広げる活動を積み上げ、県民に気づかせる。（自分達の地域を自分達で守っていこう）

都市型スタイル・農業・漁業の特性を生かしながら学びあうなど今の連携を強める。後継者問題や地域差など、マイナス思考をプラス思考に持っていけるようにする。

都市部が農村・漁村部を支えるしくみが大切。

3つの地域が食を共通のテーマとし、地域の取り組みや地域文化の掘り起しなど、交流を通じた環境の広がりが大切。

地域の特徴を持っている県なので、県民の動きを広げていき、県の行政に

結び付けたい。(コミュニティ同士を繋げる)

【例えば、地域のつながりが見えてくるようなイベント】

大崎市田尻地域でやっているエコツアーを気仙沼地域で実践。

気仙沼でやっている環境教育を大崎市田尻地域や仙台地域で実践。

各地域の環境教育プログラムの見本市を仙台地域で開催。

コミュニティトレード (地域で足りない部分を他の地域からトレードする)

